

平成30年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第6学年

教科	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は85%であった。日直のスピーチの機会や各教科での話し合い活動を設けているものの、各学級ともに話したり聞いたりすることに対して、苦手意識をもつ児童が依然としている。 【話すこと・聞くこと】 ・昨年度末の達成率は85%であった。文章全体から要旨を考えたり、要点を抜き出したりする活動を5年生時より継続してきたことが、達成率の維持につながっている。 【読むこと】 ・昨年度末の達成率は62%であった。漢字練習の仕方を学年で統一したり、自主学習で個別に課題を提示したりして、一人一人が地道な努力を重ねていくようにする。 【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のスピーチや各教科での話し合い活動を継続して行い、さらに児童が話したり聞いたりする力が向上するように、指導・助言を行っていく。互いの話し方・伝え方のよい点や課題について考える場を設け、相手のよいところを自分に生かしていく姿勢を身に付けられるようにする。 ・文章の要旨を考えたり、要点を捉えたりする活動を、授業の中で引き続き行なっていく。さらなる向上のために、読み取った内容から、自分の考えや意見を記述するなど、読み取るだけでなくそこに自分なりの表現を加えていく活動を意図的に取り入れる。 ・定着した漢字練習の仕方を継続したり、個別に課題を提示し取り組ませたりするなど、反復学習を行うことで向上を図る。漢字の成り立ちや熟語の意味について捉える活動も併せて行うことで、漢字の学習に対する意欲を高める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は76%と低かった。出来事等が起こった理由を自分の言葉で記述する問題を不得手とする児童が多く見られる。 【思考・判断・表現】 ・昨年度末の達成率は89%であった。年表や資料から、キーワードを見付け出し、適切な言葉を使い表現する力に向上が見られる。 【技能】 ・昨年度末の達成率は80%であった。歴史学習に関する関心の高さに対して、社会科用語の定着が不十分である。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習を積極的に取り入れ、児童自身が資料から、時代背景を捉えたり、ある出来事が起きた理由を考えたりする活動を行なえるように、教師は意図的・計画的に授業を行う。資料から得た根拠をもとに、自分の考えを表現する場を意図的に設定する。 ・ICT機器等を活用し、学級全体で資料を読み取り、個人で思考する等、根拠をもち考えるための材料として資料は活用するという意識を児童がもてるように、指導・助言を行っていく。1つの資料だけでなく、複数の資料から自分の考えを導く活動などを取り入れ、資料活用の力をさらに高める。 ・資料等の読み取りで学んだ内容と社会科用語が結びつくように板書やノートを工夫したり、授業の始めには前の時間の学習内容を復習したりするなどして、知識の定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は80%であった。文章を正確に読み取り、立式することにまだ不安のある児童が見られる。また、分数や小数の割合で、数の関係を正確に考えて式に表すことのできない児童が多い。 【数学的な考え方】 ・昨年度末の達成率は82%であった。分数の割り算については達成率が低く、多くの課題が見られる。特に乗除混合計算について混乱してしまう児童が多い。 【技能】 ・昨年度末の達成率は85%であった。分数のたし算・引き算についての理解は全体的に高い水準にあるが、分数のわり算の学習内容の習熟に課題がある。特に文章に書かれている情報を、数直線に表す事を苦手とする児童が多い。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を多く扱ったプリントを宿題として出す。授業では、立式したものを説明させる活動を多く取り入れ、数の関係を数直線に表し、式の意味を深く考える習慣が身に付くようにする。 ・乗除混合計算等、達成率の低い分野に特化した問題に多く取り組ませる。レベルアップタイムの時間を活用する。その際には、東京ベーシックドリルを活用し、反復練習による基礎・基本の徹底を図る。 ・文章の内容が視覚的に捉えやすくなるように、電子黒板等ICT機器を活用する。数直線の書き方等についても、デジタル教科書などを使い、順序立てて分かり易く説明する。

<p style="text-align: center;">理 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は76%と低かった。条件を整理しながら実験方法を考えたり、実験結果と自分の考えを区別したりすることに対して苦手意識を感じている児童がいる。 【思考・表現】 ・昨年度末の達成率は80%であった。多くの児童が友達と協力しながら条件を制御し、観察・実験を行うことができるが、自分で実験の意味や方法について考え、実験計画を立案する力が十分に身に付いていない児童もいる。 【技能】 ・昨年度末の達成率は84%であった。観察・実験を通して学んだ内容と科学的な用語等がしっかりと結び付いていない児童が、全体的に多い。特に「体のつくりとはたらき」等、生命分野における知識の定着は、児童により大きな差が見られた。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法の立案の際には、学級全体で調べる目的を共通理解する場を設ける。また、児童が意見や考えを交流する場面を意図的に設けることで、学び合いながら活動を進められるようにする。 ・実験は小グループ（3人程度）で行い、どの児童も同様の経験ができるように配慮する。限られた時間の中で円滑に作業が進められるように、教師が事前に実験を行い、実験の要点や安全面を確認し、器具等の用意を万全に行うことは、継続する。 ・生き物同士の食物連鎖による関わりや、人体に関する事など、調べ学習が中心になる活動の際は、電子黒板やパソコン等ICT機器を使い、理解を深めさせることで、知識の定着を図る。
<p style="text-align: center;">体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への関心や意欲は、全体では高い。しかし、運動領域によって運動に対する苦手意識や抵抗感をもつ児童が数人見られ、個人によって差がある。 【関心・意欲・態度】 ・ペアやトリオ、グループでの教え合い、よいところや改善点を伝え合う活動に課題がある。【思考・判断】 ・運動の技能は、動きのポイントの理解が不十分な児童が見られ、技能に個人差があった。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子も楽しく運動に取り組めるようにするために、場の設定やルールを工夫する。個人によるめあての設定を行い、児童自身が自ら運動に取り組めるように、意図的な指導を行う。 ・児童が運動の特性や基本的な動きのポイントを理解した上で、互いに助言し合ったり、学び合ったりする場を設ける。そのために、モデルをICT機器を用いて提示したり、資料の提示や学習カードを工夫したりする等の手立てを講じる。 ・タブレットPC等のICT機器を活用し、自分や友達の動きを確認したり、教師が運動のサポートをしたりして、技能の向上に引き続き努める。
<p style="text-align: center;">家 庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科に興味・関心があり、意欲をもって学習に取り組んでいる児童が多い。技能面の不安や活動内容の理解の不十分さから、活動に消極的な児童も一部見られる。 【関心・意欲・態度】 ・生活経験等の差により、技能面で個人差が大きい。基本的な事項や技能を、丁寧に指導していく中で、個に応じた対応していく必要がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に基本的な技能習得のめあてや、活動の見通しをもたせることで、学習に対する意欲を継続できるようにする。個に応じた課題を教師が提示し、活動する中で担任・講師が必要に応じて、休み時間等を活用し補充指導を行う。 ・学校で朝食の献立を考え、家庭で作ってくる等の課題に取り組むことで、学習内容の定着を図るとともに、保護者に活動の様子を伝え、家庭の協力を得られるようにする。技能を習得していく場面では、デジタル教科書を提示したり、書画カメラで教師の手元を大きく映し出したりする等、ICT機器を効果的に活用する。